

お骨を納めた耳付き壺は東海地方からやって来た！

かいゆうそうじこ

灰釉双耳壺



市内 請西地区に所在する大畑台遺跡から出土した蓋付きの壺です。器の表面に草木の灰を利用した釉薬が塗られ、器の胴部の両側に耳のような「取っ手」が付いた形状から「灰釉双耳壺」と呼ばれています。壺の高さは21.4cmで胴部の最大径は22.1cmです。平安時代のお墓に埋葬されていた壺で、火葬された人骨が納められていました。壺に使用された土や作り方の特徴から9世紀頃に愛知県名古屋市東部の猿投という地域で焼かれたと推定できます。房総半島の中ではいち早く近畿地方や東海地方の先進的な文化を受け入れてきた、当時の木更津の歴史・文化的な性格を示す資料です。

市指定文化財：有形文化財（考古資料）

指定年月日：平成27年4月24日

所在地：木更津市太田2-16-2（木更津市郷土博物館金のすず）

所有者：木更津市

員数：1口

公開・非公開の別：公開
